

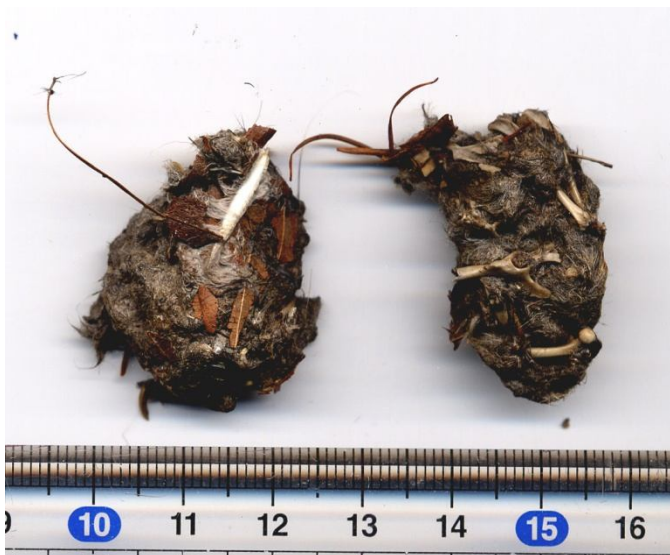
## 「お茶フクロウ (3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

猛禽類の多くは、餌(ネズミや小型の野鳥)を丸飲みして、未消化の部位(骨や体毛、羽毛など)を口から吐き出す習性を持っている。



フクロウも例外ではない。上の写真は、北軽井沢の山荘裏庭で拾った、フクロウのペレットである。大きさは2~3 cmほどで、黒っぽいものが多い。



ペレットは、その鳥が何を餌にしていたかを調べるには、非常に良い試料になる。左側の標本をよく観察

すると、獣毛に混ざって、鳥の羽毛も見られる。ネズミ類が多い浅間高原にあっても、小型の鳥類も餌にしていることがよくわかる。



右側のペレットは、様相が異なる。黒と白も混ざった獣毛の隙間に、小さな骨がたくさん埋まっている。恐らくネズミのものだろう。注意深く分解すると、ネズミ1匹分の骨が、丸ごと現れることもある。

もしお茶大にもフクロウがいて、恒常的に餌をとっているとしたら、このペレットが見つかるはずだ。子どもたちと探してみたいと専門家に相談したところ、**「ペレット探しは良いですよ！子どもたちに科学する目を持ってもらおうと良いと思います」**と、賛同していただいた。

ちょうど4年生が「秋の自然観察」の時期に入っている。大学キャンパスで、さまざまな動植物に触れる機会も多い。夜間にフクロウの声や姿を観察させるのは難しいが、ペレット探しなら、授業の中でもできる。

お茶大の構内には、ケヤキ、イチョウ、メタセコイア、クスノキなどの巨木も散在する。すべての場所がはき掃除をされているわけではないので、そのような樹の下には、フクロウのペレットが落ちている可能性もある。私は同僚の理科教員とも相談し、4年生と「ペレット探し」を実施することにした。